



ディズニーアニメ『塔の上のラプンツェル』公開記念

## 中川翔子 インタビュー

3月12日（土）に公開されるディズニー50周年記念作品『塔の上のラプンツェル』。ラプンツェルの日本語キャストとして選ばれたのは、大のディズニー好きで知られるしょこたんこと中川翔子さん。

今回はその中川翔子さんに、『塔の上のラプンツェル』の魅力と、ご自身の夢や日常について語っていただきました。

—— ラプンツェル役は、人生最大のビッグバンでした。

Q：ラプンツェルの役が決まったとき、どう思いましたか？

こんなに信じられないことが人生に起きてしまってどうしようという嬉しさと、ものすごい責任感と衝撃とプレッシャーと、だけどやっぱり嬉しさがぐるぐるしました。



一人っ子だったので、留守番中はディズニーのビデオを繰り返し見せられていましたし、お金がなくてもフロリダのディズニーワールドに母と二人で貧乏旅行したりして、そうやって幼少の頃から母に、いかにディズニーが素晴らしいかということを教育されてきたので、家に帰って母に報告した途端に、二人とも口を開けて呆然としてしまって、その後「やったー」と転げ回りましたね。

とにかく、人生最大のビッグバンです、本当に。だい、だい、だい、だい大抜擢で、いかにすごいかってことを噛み締めて挑まなくてはいけないと思いました。

実際に、アメリカ版のラプンツェルを観たときは、なんて美しくて、可愛くて、強くて、おてんばでと、両手で足りないくらいの色んな魅力が詰まった未来的な女の子で、日本語版でどんなふうに表示したらいいんだろうってぐるぐるになったんですけど、100年、200年と、地球が回り続ける限り、自分が死んでも残っていくという"生きた証"になると思い、心してかかろうと決めました。

—— ラプンツェルのジャッキー・チェンばりのアクションが見所

Q：ディズニーアニメ『塔の上のラプンツェル』の見所は？

3Dでぜひ見て欲しいと思うのは、飛んでいくあかりだったりとか、ラプンツェルの美しい髪ですね。

他にも、風、水、大地、すべてが美しいんです。

でも、そんな新しさの中に、50作品アニバーサリー作品ということで、すごくディズニーならではの、懐かしさも感じるような仕掛けが沢山用意されています。それは色彩だったり、船の上で歌いながらロマンティックに大切な人と想いを確かめ合うところだったり。

馬のマキシマスが飛び出してくるシーンや、ラプンツェルの相棒のパスカルの表情が人間くさいところも、古きよきディズニスピリッツを感じます。でも、その背景で、3Dで加工された美しいあかりが飛んでいったりと、新しさと、懐かしさが融合した、まさに今の時代だからこそ生まれた、運命的な作品だと思います。



あとは、ラプンツェルの髪の毛を使ったジャッキー・チェンばりのアクションシーンも見所ですね。

ずっと裸足だし、ヒロインとしてはびっくりで。見た目はとても可愛いし、女の命である髪もとっても美しいし、私も真似して金髪にしちゃいましたし、ドレスもとっても可愛くて、だけど、フライパンを投げ回していたり、髪の毛で縛り上げちゃったり、ターザンのように飛び回ったり、型破りで斬新な女の子で。とにかくラプンツェルは目が離せません。



—— 無謀だと思っても、生きている限りは不可能じゃない

Q: 『塔の上のラプンツェル』のテーマの一つは、「夢」だと思うんですが、  
これまで叶えた夢、これから叶えたい夢はどんなものがありますか？

私は、アニメが大好きで、落ち込んだ時も、なかなか友だちができなかった時もアニメの歌に励ましてもらっていて、ずっと漠然とアニメの歌が好きだったんです。だから、一つ叶った夢といったら、コンサートをやったことですね。

初めてのコンサートのとき、直前まで、「自分なんて人と話すのが苦手で、こんな人前で歌うなんてこと、できるわけない、消え去りたい！」って号泣していたんですけど、幕が開いた瞬間、まるでラプンツェルのランタンのように、みんなが光を持って待っていてくれて、助けてくれて、ひとりじゃないんだって思ったんです。その感情の起伏は、ラプンツェルが初めて塔の外に出たときに、「わーっ！」と喜んだと思ったら、「勝手に出ていってお母さんに怒られる…」とすごく落ち込んだと思ったら、また「わーっ！」と喜んで、落ち込んで、を繰り返すっていうあの感じと似ていました。



実は、そのコンサートは、会場がたまたま父もコンサートをしたことがある場所だったんです。それまで、ずっと父のことが嫌いだったんですけど、「ああ、ここで父も同じ光をみていたんだ」と思ったら、なんだか人生のビッグバンという感じですべてが変わっていきました。過去の悲しかったり、悔しかったり、無駄だと思っていて時間は、すべて経験値として変えていかなくっちゃ、勇気を出したり夢を叶えたりするのは自分次第だと思えるようになってきました。

ラプンツェルをみて、この気持ちを思い出したんです。勇気を持って、前に進むためには切り離さなきゃいけない色んなことがたくさんあるけど、全ては自分次第。だから、これからも何か

につまずいたら、ラプンツェルを観ようと思います。みなさんもきっと何かしなきゃ！って思えるはずです。

他には、最近深海に潜る機会があって、5000メートル潜ることができたことも、ひとつ夢が叶ったことですね。

ひきこもりを続けていたら、絶対できなかつたことです。家で図鑑を見ているだけでも満足していたんですけど、実際に動いている姿を見れたことがとても嬉しかったです。こうやって、実際に外に出て動いているものに触れることが楽しくなってきたので、次は宇宙に行きたいなと思っています。

一つ一つ夢を実現していく中で、無謀だと思っても生きていく限りは不可能じゃないと思うようになってきました。落ち込むことは多いんですけど、落ち込むにはその根底にすごく好きなことがあるということに気付けたので、今は落ち込むことがあっても、いつでも好きなものにはアンテナをはって、実現できるようになったらいいなと思っています。



## ——— しょこたんが漫画化するなら「鉢かづき」

Q：今回はグリム童話が原作ですが、子供の頃はどんな本をよんでいましたか。

父から与えられていたのが、日本の古い妖怪全集とかだったので、妖怪やちょっと怖い話ばかりを読んでいました。

頭から柿が生えるおじいさんの話とか、三年とうげとか、ちょっと怖い作品をよく読みましたね。

Q：電子書籍サービス「ブクログのpapier」では今、グリム童話や著作権の切れた作品を漫画化しようという「[青空文庫漫画コンテスト](#)」を開催しています。もし、参加するとしたら、何を題材にしますか？

ラプンツェルの吹き替えやったときに、すごくかぶるところがあるしびったりだねと言われたんですけど、実は「髪長姫」というよりもあなたって「鉢かづき」だよねと言われて。改めて考えると「鉢かづき」ってすごく面白いですよね。なんで鉢かぶっているんだろうとか、鉢をとると金銀財宝がでてくるとか、もう、一から百まで意味わからないんです。私だったら、「鉢かづき」を題材にします。



## ——— ラプンツェルにWiiを持って行ってあげたい

Q：ラプンツェルのように、18年間閉じ込められてたらどうしますか？

自主的に閉じこもっていたので、ほぼラプンツェルの状態と同じだったん思うんですけど・・・。

きっとラプンツェルは、恋もしたこと無いし、お友達も居ないけど、本を読んだり、絵を描いたり、自分の好きなことを見つけて、自分の居心地のいい空間にしたから、大きな苦痛なく過ごせたのかなと思うんですね。

私も、同じで、外に行くくらいなら、絵を描いたり、ゲームをしたりして、自分のお城を作っちゃっていましたね。

なので、同じ状況になっても平気です。でも、外に行かなきゃ気づけなかったこともたくさんあると思うから、出てよかったとは思いますがね。

いつか老後はやれてないゲームを消化していくと決めていますし、もし今閉じ込められたらゲームをしますね。

でも、ラプンツェルはよくテレビもゲームもないところにいられたな・・・持って行ってあげたいですね。

Wiiとか。ラプンツェルはWiiやりそうですよね。



## 私の相棒はマミタス

Q：ラプンツェルは、カメレオンのパスカルが相棒でしたが、相棒にするならどんな動物？



猫しかいないです。これまで色々な猫を飼ってきましたけど、猫って私が泣くと必ず近くに来てくれるんですね。そういう心でつながる生き物だなと思うんです。ただ、今飼っているマミタスはまた特別で、毎朝起こしてくれますし、毎日なにか贈り物を持ってきてくれるんですね。ヒーローの超合金だったり、大きなTシャツだったり、いろんなものを毎日持って来てくれます。個展を開くって決まったときに、何をしようかなと思っていたら、白い絵の具をくわえてきたんですよ。香港に行く前日に、ブルース・リーの缶バッジ持って来てくれたり。マミタスはわかってるんです。なので、私のパスカルはマミタスですね。

## 最後にひとこと

すべての魅力を言葉では伝え切れないんですが・・・。

ラプンツェルは、ディズニーのヒロインという概念をばっさり新しくしちゃう女の子で、アクションシーンも満載なので見ているとすごくスカッとすし、先が見えなくてドキドキするし、でもすごくストレートで感情にズドンとくるし、この時代に難しくなってしまった「純粹になる」ということをどんな人にもさせてくれる、素直に涙が出てきて、笑えて、ハラハラして、そしてなにより、誰にでも夢を持つことはできて、でもそれに近づいたり、叶えるためには、自分の心の強さが大切で、何があってもそれは前に進むための種であって、それを夢に変換していくのは心の強さなんだということを教えてくれる映画です。

女子も男子も、お子さんも大人の方も、人生の色々なタイミングを迎えている方も、みんなきつと共感出来る場所があるし、人生を変えるスイッチが入る映画だと思いますので、ぜひ映画館で3Dでこの美しさと感動を味わって欲しいです。



## 05.映画について、しょこたんについて

---

### 中川翔子について

中川翔子（なかがわしょうこ）

1985年5月5日生まれ

東京都出身 牡牛座 A型

公式サイト「[しょこたんねっと](#)」

公式ブログ「[しょこたんブログ](#)」

### ディズニー最新作『塔の上のラプンツェル』について

#### ■ストーリー

グリム童話の「ラプンツェル（髪長姫）」を映画化した、ウォルト・ディズニー・スタジオの長編アニメ第50作。逃亡中の盗賊フリン・ライダーは、山奥の谷にそびえ立つ高い塔を見つける。好奇心から塔に入ったフリンは、髪が驚くほど長い不思議な少女ラプンツェルと出会う。彼女は18年間、塔の中だけで生活してきたがフリンとともに外の世界へ冒険の旅に出ることになる。

#### ■作品情報

塔の上のラプンツェル

2011年3月12日（土）ロードショー



[映画『塔の上のラプンツェル』公式サイト](#)



「塔の上のラプンツェル」公開記念  
中川翔子 インタビュー

<http://p.booklog.jp/book/22431>

発行所：ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/22431>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/22431>

